

どくまで続くぞ

戦争の時代は、インフレと言います。しかし現代は明らかに平和な時代です。環境、資源エネルギー、食料危機が叫ばれています。今、戦争まで至っていません。戦争へのマグマが蓄積されていく過程なのでしょうか。いまのところ平和です。

私達庶民の生活が、今日より明日がより豊かになる、希望の時代が果たして訪れるので

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2010年2月15日(月) No102

地域から明るい未来を作ろう

しようか。私達が生きてきた社会とは異なります。果たして若者に未来を語れるでしょうか、実際、若者のために未来にどんな豊かな社会を創れるのでしょうか。希望はありますが一人ひとりが目覚めない限り、無理ではないかと感じるも、真実を伝え、砂上の一滴に徹するしかないと思う。

一年以上にわたる土石流のような検査マスコミ攻撃よつても倒せない。参議院選挙の敗がほぼ見えてきたことを微妙に察知した米国支配階級は新政権を抱き込み、長いものには巻かれる式の懐柔策に転換した？。

ささやかな希望ですが国益のため、騙されたふりを使い分けるリーダーで有ってほしいものです。

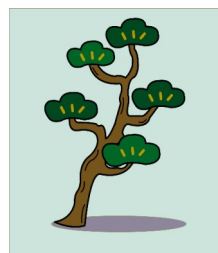
旧政権に観る官僚国家、歴代の殿？であつてはならないのです。これ以上の悲劇を繰り返せば、アジアでも三流への道です。すでにその兆候が見えています。デフレは国内問題ではなく対

米、対中国等のしたたかな国家戦略しか、出口は見えてこないのでしょうか。

菜根譚

勤勉とは本来道徳の実戦に励むと言う意味ですが、財産を増やすための手段と思われたいです。儉約とは利益の追求に走らないと言う意味ですが、世間ではケチの口実に使われています。これら勤勉と儉約は、私利をはかる道具に使われています。これらは本来人格の向上に努める日本の大事な「お守り」であります。

いつからか跋扈する時代ではありませんが、人から後ろ指をされたくないような生き方をすると言うことでしよう。人たる道を尽くす、これが私達の社会の掟であつたはずなのです。



戦後（敗戦）アメリカのスタイルを見習えば、成功する。金で人は動かせるという価値観が蔓延、わが国の国益と、日本人をなおざりにした。

「構造改革」で、本来目指すべき国家の「独立自尊」精神を忘れた「保守」は今日、衰退

の一途をたどる事でしょう。アメリカ人が拉致された場合、国家の威信を懸けどんな犠牲も厭わず闘う。これが本来の国家です。国民に

属国の意味

対する忠誠心です。わが国の「保守」は戦後三十年余りで、海外戦没者の遺骨収集を中止、民間事業にしました。これ自体、国

国際常識を疑います。戦後の選択肢の転換が問われ、旧守勢成力と綱引きが行われています。これにはマスメディアの世論誘導が決定的な役割を果たします。独立国家は別ですが、属国である限り、宗主国に全てを献上する定めを逃れ切れま

の責任を放棄したものです。この国は、命を捧げ犠牲を払った国民を見捨てたのです。国家として民族の誇りの問題だと思ふのですが、

せん。わが国の人口減少や少子化その他、諸問題は属国からの独立でしか永遠に解決しないものです。